

# 大切なお客様 と キャプス をつなぐ きゃぷす便り



2018  
第55号

2018.2.15発行

2008年創刊  
毎月1万部発行

介護・福祉の文具マーケット CQPS キャプス



## 第2回 きゃぷす大賞グランプリ

介護の現場に映像を取り入れ、地域とつながる取り組み

### 映画製作で社会貢献

合同会社心陽  
所長 宮本 和博さん



北海道札幌市西区で訪問介護と通所介護の事業所を展開する「合同会社心陽」。社会貢献をスローガンに高齢者や地域住民が出演するメッセージ力のある映画を事業所が中心となって製作し、地域に住む高齢世帯や独居世帯の社会参加のきっかけづくりを行っています。地元警察や大学・地域包括支援センターや専門家も参加し、地域住民間のつながりがうまれるよう取り組んでいます。現在映画は2本完成。試写会には多くの人たちが集まります。

#### 「発寒映画製作委員会」を発足

北海道地域起こし・一村一品のプランナーとして地域の観光商品の企画販売や道の駅でのイベントを手掛け、高齢者の生きがいを創出する活動をされていた宮本さん。活動の中で、ひとり暮らし高齢者の詐欺被害が増加している問題を、映画にして注意喚起できればという思いがありました。

平成23年に現在の会社をスタートさせたことをきっかけに自身が発起人となり、仲間4名で「発寒映画製作委員会」という団体を発足。高齢者の方々が疑似体験をしながら、悪質な詐欺に引っかからない地域にするというメッセージ性のある映像作品「STOP! 特殊詐欺 還付金詐欺編」(2016年3月)を完成させました。

同作品は、静止画を録画したものにセリフを重ねた約20分のフォトムービー。町内会からの寄付を基に約半年をかけて制作されました。

映画の出演者は、地域包括支援センターに呼びかけてもらった地域の高齢者と町内会長さんや地元警察、専門家の方々。もちろん映画出演経験はなく、声をかけると「私が?!」と躊躇されることもありました。

実際に認知症に詳しい専門家や警察署の方々による詐欺被害について聞く講座を開き、リアリティーの追求に取り組みました。

「不審な電話がかかってきた場合、一人で抱え込まず周囲に相談してほしい」という注意を含め、警察の相談専用窓口「#9110」も紹介しています。

出演者からは、「良い思い出ができた。この映画を見て詐欺防止に一役買えたならうれしい」との声。



出演者や町内会、商店会、役所関係と共に行った試写会は40人もの人が集まり盛況に終わり、テレビ・新聞・業界紙でも取り上げられ話題となりました。その他にも、詐欺犯罪の啓発に役立ててもらいたいと映像をDVDにして、高齢者グループホームや問合せがあった各所へ約200枚手渡し配布もしました。「身近な地域の方が出演しているということで、親近感を感じたという声や孫を呼んでDVDを繰り返し見ているという喜びの声も聞けた」と当時を思い出し、高揚した面持ちの宮本さん。

また、2017年3月には、地元テレビ局の全面協力の

●2ページに続きます

もと2作品目となる「地域から発信!!『認知症なんて怖くない!!』」を完成させることができました。実際に出演した高齢者の中には、目を見はるような変化があった方もいました。引きこもりがちだった要支援2の男性は、映画出演後は地域サロンに毎日顔を出すようになり、今では地域の高齢者と交流を楽しむようになったそうです。

これらの活動は、地域の高齢者の生きがいとなり、その輪が全国各地へと広がって欲しいと宮本さんは語ります。

## 介護の現場に動画を

映像制作の経験をいかし、介護現場に動画を取り入れる取り組みも開始しました。

2017年10月から「デイサービス 心陽」を開設。レクリエーションに動画制作や映像制作を組み込み、通常は紙媒体での記録が中心となることを、動画で記録するという新たなアプローチを開始しました。事業所内にミニスタジオを常設し、動画機材も揃えています。

例えば、デイサービスに通うようになって表情が明るくなったという変化が見られた時、映像なら記録者の主観に偏ることなくありのままを記録することができます。

また、インタビュー形式のウェルカムビデオ(フェイスシートの動画版)を作成し、1年後に本人の変化をご家族に確認してもらうことも予定しています。

## 地域ぐるみのサービスを創造

心陽は利用者の自立度や満足度を上げるためには、利用者の馴染みの地域との関わりは切っても切れないものであると考えます。心陽の行う地域の方々を巻き込んでの映画製作は、利用者だけに提供するサービスの枠を超え、地域の高齢者にも普段の生活から得ることがない交流や出会いを生んでいます。また、完成した作品で広く啓発をすることで達成感や社会との繋がりを実感し、生きがいの創出にも繋がっています。これらの活動は、地域レベルではありますが一つの社会貢献へと結びつき始めています。

## 心陽の目指すもの

「新たな仕事を創出することで、高齢者自身が、誰かの役に立ち、誰かに喜んでもらっているという気持ちになってもらいたい。高齢者の方々は、介護サービスを受けることになると人にお世話をしてもらっているのだという気持ちが強くなりがち。過去の経験や映像を活用したレクリエーションの経験を通して、地域活動や社会活動を積極的に行えるサービスを創造し、年を重ねるからこそ人生の喜びがあると実感していただく機会を作ることが使命」と宮本さんは語ります。

DATA

合同会社心陽  
北海道札幌市西区平和二条6丁目1-1 平和ビル  
電話011-666-8588

## ■きゃぶす大賞を受賞して(宮本 和博さん)

この度は、キャブス大賞を頂き大変光栄に思っております。高齢者の生きがい活動の一環で取り組んだ映画製作を通して、多くの方や様々な専門家との繋がりができ、当事業所としても大きな財産になり、介護事業と地域活動の両立をしていく手ごたえを感じております。

「心の健康」「自分の為が人の為」「介護で生かそうそのスキル」「地域活動&社会参加」等、幾つかのキーワードを掲げ、介護活動を行っていきます。キャブス大賞のご関係者の皆様、ありがとうございました。



宮本さん

弊社営業課係長 沖

## 第2回きゃぶす大賞審査会

「第2回きゃぶす大賞」へたくさんのご応募、誠にありがとうございました。

2017年のテーマは、「地域に暮らす人とつくる介護サービス」。どの事業所様も、地域の特性にあわせて、工夫に工夫を重ねた独自の取り組みでした。これからの福祉や介護には、自立性と主体性が求められてきます。ふだんの生活のなかでリハビリしたりつながりをもったりする機会を創出できる介護事業所には、多くの人が集まってきます。そうした意味での地域と暮らす人とつくる介護サービス、これからも知恵と工夫でがんばっていただきたいと思います。

★QRコード読取機能を使って、実際に制作された2作品の映像をご覧ください。

■ STOP! 特殊詐欺 還付金詐欺編

<https://www.youtube.com/watch?v=oAz8XHjQNuQ&feature=youtu.be>



■ 地域から発信!!『認知症なんて怖くない!!』

<https://www.youtube.com/watch?v=Bs-0UqX8Xpl&feature=youtu.be>



## 未来につなぐ人財育成のエッセンス③⑥

# 採用までのロードマップをつくろう ～スタッフ募集作戦3～



景気がよくなると、介護業界の人材難はますます深刻になります。ただでさえ日本全国人材不足なのに、他の業界で人手をとられてしまえば、事業所の閉鎖がますます増えていくのではと心配です。今までにないさらなる工夫が必要ですね。

人材確保の工夫には大きく分けて2つあります。ひとつは、仕事を探している求職者の目にとまるようにする工夫です。求職者に「あれ？ ここいいかも」と思ってもらえるためにはまず知ってもらうことが大切。知ってもらうためには、従来、ハローワークに求人を出す、チラシや新聞などへ広告をうつなどがありました。しかし、このごろの就職活動の情報検索は、ほぼインターネットから。人材紹介会社からのDMもメールです。インターネットで調べてもらえる準備をしておきましょう。

具体的には、ハローワークや人材紹介会社のほか、求人検索エンジンもとても便利です。ホームページも必要ですが、ブログ記事は事業所の日々やスタッフの人柄、仕事の質などがわかるのでたいへん有効です。

そのほかにおすすめしたいのが、「紹介システム」です。すでに職員として勤務している人からの紹介で、見学に来た、採用された、試用期間から本採用になったといったタイミングで謝礼を支払うもの。紹介で入った人材は離職しにくく、比較的安定しています。期間限定で謝礼を変えてメリハリをつける事業所もあります。

また、利用者家族からの紹介も効果的です。いいサービスができていて職員との良好な人間関係がある事業所であればという条件付きですが、ボランティア活動で接点をもちながら時間をかけて本採用につな

がったというケースもちらほら聞きます。紹介を促すのであれば、職員募集のポスターやチラシ、事業所だよりなどの広報紙に掲載しておく必要があります。紹介者が十分な説明ができないときは「これを見て」と手渡せるものがあれば便利なので、募集案内を作り、目にとまる場所に置きましょう。

さて、もうひとつの工夫です。仕事を探している人の目にとまったあと、見学や面接の連絡をしてもらうために、勤務条件や給与、休日、仕事内容などをできるだけオープンにします。「要相談」や「規定による」と書かれているだけでは人は興味を持ちません。書きにくい場合には、大卒22歳の例などと具体例を出さなくてもよいですね。

あと、イベントの開催、見学会の開催など実際に接点をもつきっかけをつくります。たとえば「この日には介護研修がありそのあと見学会があります」といった、事業所の地域貢献や介護予防活動にセットすると、一般の方々と一緒に参加しやすい雰囲気になります。また、「毎週水曜日には定例就職相談会があります」など、求職者向けに対応窓口を設置し準備を整えていることのアピールも有効です。採用担当者のお名前や優しそうな顔写真を出して、不安を安心にかえる工夫もぜひやってみてください。

まずは、基本的なこの2つ。意外に取り組んでいない事業所もありますので、今更ながらではありますが、やってみてください。そのとき、ただ単に「人材募集しています」だけではなく、求職者に見つけてもらえる魅力的な事業所であることや、求職者がほかの事業所よりもここで働くことで幸せになれる要素が提供できるかどうかが大前提。春の制度改正へ向けてさらなる人財の確保にがんばってください！



一般社団法人リエゾン地域福祉研究所 代表理事 丸山 法子

リエゾン地域福祉研究所 検索



(社会福祉士 介護福祉士 生涯学習開発財団認定コーチ NLP マスタープラクティショナー)

## 福祉を語るあなたへ贈る本

### ケアマネジメントの本質

生活支援のあり方と実践方法

白澤政和：著  
中央法規出版：出版



個人支援のケアマネジメントと地域支援としての地域のネットワークを一体的に取り組むソーシャルワークの理論と実践を解説。介護現場から、日本のケアマネジメント論とこれからの地域のありかたを見渡せるバイブルとしての一冊。

※キャプスでは販売していません

何月始まりからでもお作りします！  
・2018・  
Only one カレンダー

プレゼントにおすすめ！

こんな方におすすめ

- 家族の古い写真をキレイに再現したい！
- 思い出の詰まった写真を飾りたい！
- 両親の選歴、結婚祝い、誕生日などに、オリジナルの贈りものをしたい！

印字します

- ・家族の誕生日
- ・結婚記念日
- ・祖母命日 など



